科研費増額要望書にご賛同いただいた学会連合 各位

科研費増額要望運動につきまして、大変お世話になっております。

以前、昨年 9 月 6 日（金）盛山正仁 文部科学大臣への要望書の提出のご報告をさせていただきましたが、今回はその後の進捗状況のご報告になります。

ご存知、選挙が行われ政府が代わり補正・当初予算が確定しました。R6 年度補正予算に関しては、科研費 52 億円の要求が通りました。
https://www.mext.go.jp/content/20241129-ope_dev02-000031627_2.pdf
資料の 30 ページになります。

一方、12 月 1 日に文科省研究振興局長とも面会させていただきました。その後、R7 年度当初予算案が閣議決定されました。科研費については、3 年間 2377 億円で横ばいだったところ、文科省の方々のご尽力で、2 億円の増額ということになりました。たった 2 億円かと思われるかもしれませんが、厳しいシーリングのなか、少しでも上がったということは評価されると思います。
https://www.mext.go.jp/content/20241225-ope_dev02-000037774_1.pdf
資料の 76 ページになります。

これにより、文科によりますと、概算要求をしておりました「基盤研究 ABC」における重点配分については、新規採択の約 5%（約 800 件）の課題に対して、研究費の重点配分の実施が可能となったということです。上記の課題については充足率が改善されます。

今後は、R8 年度当初予算の増額に向けて、引き続き働きかけていきたいと考えております。そこで、一つ嬉しいご報告ですが、社会からの要請も重要ということで、経団連の方にも昨年来働きかけましたところ、添付の 12 月 4 日の記事の通り、「2024 年の政策提言（フューチャー・デザイン 2040)」に「科研費を早期に倍増」という言葉を盛り込んでいただきました。この経済界からの熱いご支持をさらなる根拠として、まずは、再度財務省に働きかけをする予定です。また政治家の賛同を得る必要がありますので、地道に国会議員のサポーターを集めるために面談の機会を作ってご説明していきたいと思っております。そして、「第 7 期総合科学技術イノベーション基本計画」に基礎科学の重要性を書き込んでもらえるように CSTI にも引き続き訴える予定です。

以上が現時点でのご報告になります。

本要望へのご賛同、ご協力に重ねて感謝申し上げます。上記情報につきましては、所属している学会にも共有をお願いいたします。引き続きよろしくお願いいたします。

生物科学学会連合代表 東原和成
科研費人材育成委員会委員長 後藤由季子